

演題名	自然な排便を目指そう		
施設名	ライフサポートひなた	発表者(職種)	おくむら みゆき 奥村 美幸 (ケアワーカー)
チーム名	チームスッキリ		
取り組種別	問題解決型		
分類	①診断・治療・ケアの質の向上をめざすもの		
改善しようとした問題課題	定期下剤を内服しても、便秘傾向にあるご利用者に、頓用の下剤内服やレシカル挿肛・摘便をした結果、腹痛や食欲低下・下痢・便失禁がみられている。		
改善の指標とその目標値	(指 標) 臨時的な処置をせず、定期内服薬のみで排便がみられる事とする (目標値) 10月末までに便秘の処置を0回にする		
実施した対策	①トイレ介助時に、腹圧をかけるよう声掛けをする ②フロアでの体操(介護職員)、リハビリでの体操(リハビリ職員) ③食物繊維を添加(基準値プラス1g) ④下剤の調整		
改善指標の対策実施前後の変化	(実施前)ご利用者Aさん:便秘処置回数5回 ご利用者Bさん:便日処置回数3回 (実施後)ご利用者Aさん:便秘処置回数0回 ご利用者Bさん:便日処置回数1回		
歯止めと標準化	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者さんの排便への意識を持たせ、腹圧を高める声掛け、職員意識の向上 ・介護職員による腹圧を高める為の体操 ・リハビリ職員による全身活動量を高める為の体操 ・適切な下剤を提供するため月に1回、定期的に見直しを行う 		
活動の種類 ※複数選択可	②複数の職場が連携した活動 ③テーマに合わせて形成したチーム活動	チーム メンバー (職種)	1 松井 未沙 ケアワーカー 2 藤重 真理子 調理師 3 西山 瑠奈 調理師 4 奥村 美幸 ケアワーカー
活動の場 ※複数選択可	①診療部門		
活動期間	平成 29 年 5 月 ~ 12 月		
リーダー名 (職種)	奥村 美幸 (ケアワーカー)		
活動回数	14 回		

【現状把握】

現状把握：対象者の選定

- ▶ ①便秘傾向の方
- ▶ ②日中、トイレで排泄が可能な方
- ▶ ③職員の指示がある程度理解できる方
- ▶ ④定期下剤・頓用を内服した結果、便失禁している方
- ▶ ⑤便失禁した事に申し訳なさを感じている方

現状把握：対象者の決定

Aさん (82歳男性)
 体型/157cm 50kg
 介護度/要介護3

- 性格：温厚
- 状況：認知症が進行し理解力が低下
- 歩行：車椅子（自採可能）
- 起立・立位/自立
- 排泄：トイレ
- 尿意・便意：あり（間に合わない事がある）
- 食事：自立 水分にトロミを使用
- 便秘時の処置：排便-3日目に 肛門刺激またはレシカル挿肛

Bさん (90歳男性)
 体型/159cm 57kg
 介護度/要介護1

- 性格：温厚
- 状況：不穩になり帰宅願望出現すること有る 職員の見守りが必要 座面センサー使用
- 歩行：サークル歩行器使用（職員付添いのもと）
- 起立・立位/自立
- 排泄：トイレ
- 尿意・便意：不明（失禁されていることが多い）
- 食事：自立
- 便秘時の処置：排便-3日目または-4日目に 肛門刺激またはレシカル挿肛

【目標設定】

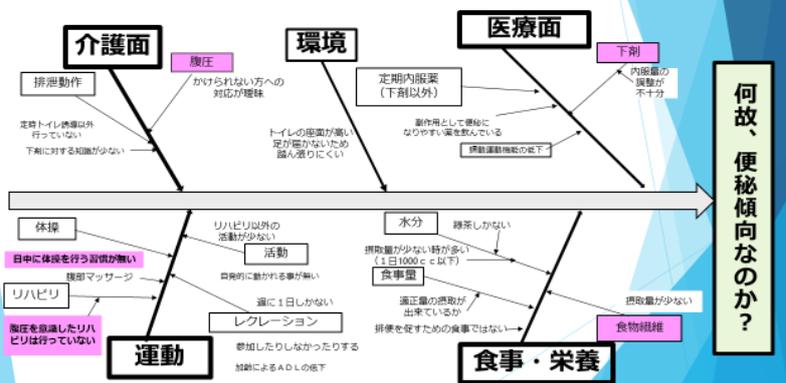
目標設定

**10月末までに
便秘の処置を0回にする！**

排便-3日目の夕食時に頓用の臨時下剤を内服したり、
 排便-4日目の日中にレシカルを挿肛をしている。
 臨時処置をする事で、心身に負担をかけて出している

【要因解析】

要因解析



【対策の立案と実施】

実施した対策

	重要要因	検証方法	具体的な対策
①	腹圧がかげられない方への対応が曖昧	職員アンケート	トイレ介助時に、腹圧をかけるよう声掛けをする
②	活動量が少ない	職員アンケート	①フロアでの体操（介護職員） ②リハビリでの体操（リハビリ職員）
③	食物繊維の摂取が足りない	管理栄養士に聞き取り調査	食物繊維を添加（基準値プラス1g）
④	下剤を内服しているが、自然排便に至っていない	ご利用者に適した下剤を処方しているか、モニタリングの強化	下剤の調整

【効果の確認】

効果の確認

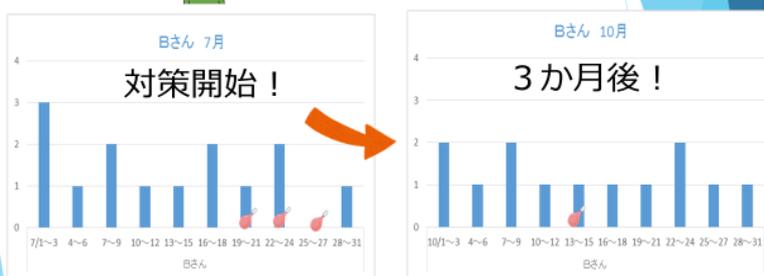
有形効果（Aさんの7月と10月の比較）



便秘処置の回数 5回→0回

効果の確認

有形効果（B様の7月と10月の比較）



便秘処置の回数 3回→1回

【標準化と管理の定着】

標準化と定着

	What ?	Why ?	When ?	Where ?	Who ?	How ?
	なにを	なぜ	いつ	どこで	だれが	どうする
教育	声掛けを	ご利用者の排便への意識を持たせ、腹圧を高めるため	排便時	トイレ	介護職員	排便を促すとともに職員意識向上を図る
標準化	食物繊維	腸内環境の改善	夕食時に	厨房で	厨房職員	汁物に添加する
標準化	①座位での体操 ②リハビリ体操	①腹圧を高めるため ②全身活動量を高めるため	①週に2回 ②週に1回	①フロア ②リハビリエリア	①介護職員 ②リハビリ職員	実施する
維持管理	下剤調整のためのモニタリング	適切な下剤を提供するため	月に1回	フロア	介護職員	定期的に見直しを行う

【反省と今後の進め方】

良かった点、悪かった点、今後の取り組み

- ▶ <良かった点>
- ▶ ・職員間にご利用者の対応について話し合う時間が増え、他部署間でのコミュニケーションが密になり、情報共有が図れた。
- ▶ ・ご利用者ご自身で腹圧をかけられるようになり、自然に排便できるようになった事でご利用者の精神的負担を減らし、笑顔がみられるようになった。
- ▶ <悪かった点>
- ▶ ・当初5名のご利用者を対象に調査をしていたが、退所され対象者が減ってしまった。
- ▶ ・医師の協力も仰げば、より効果的な取り組みが出来た可能性があった。
- ▶ <今後の取り組み>
- ▶ ・これまでと同様に職員間で連携を図り、排便の変化に注意し観察・対応を行なっていきたい。
- ▶ ・新入職員にも同様の取り組みが出来よう、教育をしていきたい。